

4/3毎日

12~15歳接種検討

ファイザー製「有効」受け

厚労相意向

米ファイザー社製の新型コロナワイルスワクチンが12~15歳にも有効だとする治験結果が公表されたことを受け、田村憲久厚生労働省は2日の記者会見で、「審議会で判断をいただければ、接種に向かって準備に入っていく」と述べ、安全性の確認や厚労省の関係者は2月に広げるよう医薬品規制当局に申請することとした。

田村氏は会見で、「ファイザー社の第3相（最終段階）試験の結果で、発症予防効果が100%あったという報告があった。これがPMDA（医薬品医療機器総合機構）で確認をし、審議会でしっかりと議論した上で最終的に判断をする」と述べた。現在、国内で承認済みのワクチンはファイザー製のみ。医療従事者への優先接種を進めている。

2回目接種から半年後まで効果

米製薬大手ファイザーは2日までに、同社の新型コロナワイルスワクチンについて、2回目の接種から大半年までの有効性が91・3%あったとする臨床試験（治験）の分析結果を発表した。世界で急速に広がる変異株のうち、ワクチンの効果を弱める恐れが指摘されている南アフリカ株に

も、一定の予防効果が示されたとしている。同社は治験に参加した約4万600人を対象に、2回目のワクチン接種後7日から6ヶ月までの感染の有無を調査。927人の感染が確認され、このうちワクチンの接種者は77人、未接種者は850人だった。

は2日の記者会見で、全国の65歳以上の高齢者の半数にあたる約1800万人分の新型コロナワクチン（1回目）を5月下旬までに供給できる見込みだと発表した。ワクチンは米ファイザー社製。河野氏は「供給のボトルネック（目詰まり）はこれで解消される。あとは自治体の接種体制をフォローして必要なサポートを提供したい」と接種の加速に期待感を示した。

【堀和彦】

**高齢者向け半数
来月に供給可能**

河野氏表明

河野太郎行政改革担当相